2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002001

テーマ	健康に過ごすための体づくり、心づくり				
担当者	朝比奈　茂	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日　4限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
1. 補完代替医療（現代西洋医学以外の医療）およびホリスティックの健康観について、概説し実践できる。 2. 自らの心身について、客観的及び主観的指標を用いて、分析・評価できる。 3. 各自で選んだテーマを調査・分析・発表できる。 4. 他人の発表に対して、自分の考え方・意見を述べることができる。	1. 東洋医学の健康観 2. ホリスティックな健康観 3. セルフメディケーションとは 4. 食事、運動、休養の重要性 5. 上記に関連する話題 ※ホリスティックとは、全体、関連、つながり、バランスといった語句を抱合する考え方

授業の進め方

- 毎回、授業のはじめに与えられたテーマに沿って、レポート記述、グループディスカッション、その後発表する。
- テーマに関する最新情報を提示し、それに対する個人の意見を述べる。
- 各自が興味ある「健康に関する話題」について、調査・分析し、発表する。発表した内容について、さらに調査を深め、自らの主張を論じたレポートを各学期の最終講義時に提出する。
- 各期に若干名の社会人ゲストスピーカーを招聘して、それぞれの業界の情報を話して頂く。

学生の皆さんへのメッセージ

本研究会は、前提として単なる知識の伝達を行う講義科目ではありません。ディスカッションを中心として講義を展開していきます。従って学生皆さんの積極的な態度が求められます。近年、健康や医療に関する情報が複雑かつ大量に出回っております。多くの方は、インターネットなどを通じて、瞬時に情報が手に入るようになりました。しかし、入手した情報のうち何が正しいか、また何を選択してよいか迷ってしまいます。今後、この様な社会情勢は益々多様化、複雑化、高速化すると予想されます。本研究会を修了することで、健康及びセルフメディケーションに対する意識が高まり、正確に物事を選択し、決定できる学生になることを期待しております。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
各自で決めたテーマについて、図書資料、WEB 資料、聞き取りなどを用いて、調査・分析し、発表に備える。 また、参考図書を各自講読する。	授業に対する積極性、課題調査・分析・発表、レポート執筆など、総合的に判断して評価する。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年生

募集は、新2年生8名（男子4名、女子4名）程度とする。
選考は、書類選考及び対面による面接で決定する。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの情報詳細は、学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

本研究会は、年に2回（夏季休暇、春季休暇）、校外で合宿を行っております。どちらか一つは必ず参加できる方を募集の条件といたします。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002002

テーマ	デザイン、アート、持続可能な社会				
担当者	板橋美也	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日　3限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース　　人間文化コース				

授業の到達目標	授業のテーマ
ディスカッションやグループワークを通して、1つの定まった正解がない課題に対して、自分とは違う考えや見方を尊重しながら自分の意見を述べることができるようになること。クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力を養い、調査内容に基づいて自分の主張を論理的に説明できるようになること。	デザイン、アート、持続可能な社会：デザイン・アート・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを学びます。そして、それを踏まえて、現代社会の課題と、それに対して何がなされているのか・なされるべきかについて、考えを深めていきます。

授業の進め方

(1)指定したテキストやテーマに関する発表・ディスカッション・グループワークを通して、デザイン・アート・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題に対して何がなされてきたのか・なされるべきかについて、様々な考えを知り、自身の考えを築いていきます。
(2)発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。
＊(1)(2)いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。
(3)長期休暇中など授業日以外に、美術館・展覧会や建築物を見学に行きます。

学生の皆さんへのメッセージ

デザイン・アート・ファッション・建築は、ただ「美しさ」や「センスの良さ」を競うだけのものではなく、人々の生活や社会と分かちがたく結びつき、近代化・産業化・消費文化の功罪、グローバル化の中での異文化受容、ジェンダーなどにまつわる、その時々の様々な課題を反映してきました。また、私たちの固定観念を問い直し、様々なものの見方に対する柔軟な姿勢を促してくれます。持続可能な社会の実現のために、デザイン・アート・ファッション・建築等を通してどのような試みがなされてきたのか・なされるべきか、一緒に探求しましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
文献購読の際には、全員がそれぞれの週に指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、各自の関心のあるテーマについての研究発表に際しては、主体的に調査を行います。	研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）・レポートから総合的に判断します

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年生

学習支援システムに提出された志望調査票に書かれた志望理由の内容によって一次選抜を行い、その後二次選抜の面接を行います。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	無	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002003

テーマ	国際平和の追求				
担当者	岡松　暁子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　5 限
関連するコース	グローバル･サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
1．自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、思考力、調査能力、問題解決能力を身につける。 2．卒業時には、研究会修了論文を提出する。	国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現　等）について考える。

授業の進め方

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。
学生による自主的な運営を期待する。適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。

学生の皆さんへのメッセージ

本研究会は 2026 年度に 21 期生を迎えます。これまで以上に、ゼミ生間の縦・横の連携を強化し、お互いに啓発し合い、学生生活において、これだけは一生懸命にやったと自信を持って言えるものを持てるようなゼミになればと思っております。

高い目標を掲げ、妥協することなく挑戦する向上心と、何事にも積極的に取り組む姿勢を持った学生の参加をお待ちいたしております。少し背伸びをしましょう。質の高いゼミを目指します。
合宿、懇親会等での OB・OG との交流も盛んであるため、卒業生と現役生との結束も強いゼミです。卒業後も縦横のつながりが長く続いています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
・毎回の予習、報告準備 ・サブゼミ（読書会、映画鑑賞会等） ・研究会修了論文発表会、OBOG 会 ・夏合宿 ・校外授業（過去の研修先：東京税関、つくば宇宙センター、外務省外交史料館、磯子火力発電所、防衛省、海上保安資料館横浜館、成田空港、米軍基地、東京証券取引所、海洋研究開発機構、等）	報告、討論への参加、レポート、ゼミへの貢献度

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2 年生

選抜方法：面接（教員と現ゼミ生による）
＊詳細は学習支援システムに仮登録をして確認してください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	1.オープンゼミ:10/20(5 限)、10/27(5 限･6 限)、11/10(5 限)　場所:BT1002 2.説明会：薩埵ホールでの全体説明会（10/22）に参加。 オープンゼミの日の 4 限または 6 限にも BT1002 にてゼミ生による相談会有り。希望者はメールをしてください。(okamatsu@hosei.ac.jp) 詳細および当日のレジュメは学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

10 月 20 日（火）6 限に、外部講師（国際刑事裁判所）による講演があります。参加希望者はメールをください。(okamatsu@hosei.ac.jp)
OBOG による講演会、外部講師の講演会、歓送迎会、懇親会等、不定期に様々な企画有り。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002004

テーマ	（海・島の）文化的景観とエコツーリズム				
担当者	梶　裕史	開講期	通年	曜日時限	金曜日　5限
関連するコース	人間文化コース　または　ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
（2年次）「環境表象論Ⅰ Ⅱ」の授業や先輩の個人研究発表から学ぶことを通じて、自らも個人研究訪問を企画・実施し、授業内容を実感的に理解できること。（3年次）夏の八重山諸島合宿に参加し、収穫を共有できること。（4年次）ゼミ 3 年間の収穫を卒業論文に纏められること。	**日本型エコツーリズムの素材としての（海・島の）「文化的景観」、関連する伝統文化資産の価値の研究**－（環境表象論Ⅰ Ⅱのシラバスに示された内容の多くがテーマ例になります）

授業の進め方

毎回、教室では個人研究発表およびその後のグループワークを基本とします。
・2 年次と 4 年次は、**各自が個人研究テーマを決めて、一人旅またはグループで**、何処かに宿泊型の（日帰り訪問の場合は年に何度もリピートする）**フィールドワークの旅を企画・実施**します。
・3 年次は、**夏休みに約1週間の沖縄県八重山諸島ゼミ合宿に必ず参加**してもらいます（費用　約 12 万）。3 年次はこのために、予備学習として春学期金曜4限、梶担当の「人間環境演習」（副題仮称：沖縄の離島研究）を必ず履修してもらい、秋学期金4は事後学習としてサブゼミ（11 月頃まで）に参加してもらいます。

学生の皆さんへのメッセージ

・「**環境表象論Ⅰ Ⅱ**」という授業と密接に関わるゼミです。現1年生は、「環境表象論Ⅰ」か ILAC 科目「**文学と社会 LA**」を履修し（または環境表象論Ⅱか文学と社会 LB を履修中で）、授業内容に強い興味関心を持った方、または募集用 webclass 掲載の教材サンプルに目を通して、強く惹かれた方が好適です。今年度秋学期の人間環境セミナー「離島講座」を履修中で大変興味持った方も同様です。
上記に加えて、海が大好きで、「島の伝統的な文化」と聞いて強く心が惹かれる人、文学・音楽・絵画など広い意味のアートが好きな人、日本の伝統文化・民俗（民間伝承）に深い関心がある人、などはこのゼミと相性がよいと思います。
・環境表象論Ⅰ Ⅱをまだ履修していない人は、参加1年目にかならず履修してもらいます。
・ゼミの後の時間に、個別指導などを行う場合があります。またゼミ後などの交流・親睦を深める機会も重視しています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
各自の個人研究の準備（学習、企画）	学年末論文、授業中の発言、ゼミへの貢献度

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年生 12 名程度、新 3 年生若干名。

現 2 年生（新 3 年）は、今までに環境表象論ⅠかⅡを履修済み（または現在Ⅱを履修中）の方のみとします。なお、現 1 年生・2 年生ともに、学習支援システムに掲載する「梶研究会を応募の候補と考える方へ」に応募前に必ず目を通してください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミは 11／13（金）5限、0605 教室にて実施予定です。情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。説明会は特に開きませんが、10／22 研究会個別相談会（@さったホール）には参加します。 質問がある場合、気軽にメールで尋ねてください。→ kaji@hosei.ac.jp
説明会開催有無	無	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002005

テーマ	企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン				
担当者	金藤　正直	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日　4限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース　ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
企業や地域の持続的成長を実現するために、**経営学・会計学・商学の視点からビジネスモデルや経営手法を論理的に分析し、構築する力**を養います。また、ゼミ生同士で議論を重ねながら、その成果を多様なステークホルダーに**わかりやすく丁寧に伝える説明力・発信力**を身につけることを目指します。	国内外の企業や地域を主体としたビジネスの現状を多角的に分析し、その実態や課題を把握します。こうした検討を通じて、**「持続的成長とは何か」、「持続的成長を実現するために、どのようなビジネスモデルや経営手法が求められるのか」**について、ゼミ生とともに理論と実践の両面から考察していきます。

授業の進め方

①現在活動中の 12 チームのうち、必ず **1 チーム**に所属します。
1)地域ビジネスチーム　2)商品開発チーム　3)サービスマネジメントチーム　4)アパレルチーム　5)ヘルスケアチーム
6)グローバルビジネスチーム　7)エンターテインメントビジネスチーム　8)エネルギー・マネジメントチーム　9)フードロスチーム
10)中小企業チーム　11)人材育成チーム　12)地域イノベーションチーム
②所属チームで**研究計画書**を作成し、それに基づく**文献調査やアンケート・ヒアリング調査**を通じて、研究対象の企業や地域におけるビジネスの現状と課題を把握し、解決策を検討します。こうした研究・調査の進捗や成果は、**チーム間の意見交換（横断）、中間・最終報告、レポートや修了論文の作成**を通じて整理し、社会（特にお世話になっている関係者）へ公表します。
※さらなるレベルアップのために、大学院生や事業関係者へのプレゼンテーション、国内外の学会報告、インゼミや OBOG 会、企業・自治体・大学主催イベントやエコプロへの参加、合宿（特別ゼミ）なども予定しています。

学生の皆さんへのメッセージ

以下の皆さんと共に学べることを楽しみにしています。
①経営学・会計学・商学の分野に関心を持ち、知的探究心を大切にできる方
②個人・共同作業やイベントに積極的かつ意欲的に取り組み、ゼミ生への配慮を忘れない方
③最後まで責任を持ってやり遂げる姿勢を持ち、成長を楽しめる方

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
本研究会では、経営学・会計学・商学に関する多様な文献を活用し、研究対象となる企業や地域への調査（現地調査）も行いながら、研究の視点・方法・内容を検討しますので、ゼミ生と協力しつつ、楽しく前向きに、かつ計画的に取り組んでください。	成績は次の **4 点**に基づいて評価します。 ①討論への参加（発言内容）（20%） ②報告用配布レジュメの内容（20%） ③報告内容（プレゼンテーション能力）（30%） ④研究・調査レポート、研究会修了論文（30%）

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 3・4 年生は**若干名**、新 2 年生は **20 名程度**募集します。

【選抜方法】
①　「研究会志望調査票」と「面接試験の内容」をもとに総合的に評価します。
②　面接試験の日程や合否の結果報告は、Hoppii とゼミ公式の Instagram で行いますので、各自確認してください。
Instagram：https://t.co/tqIH0pq257

【その他】
①　**研究・調査レポートおよび研究会修了論文**の執筆は**必須**とします。
②　**研究・調査先、国内外の学会、自治体や企業などのイベントでの研究報告や論文投稿**も行います。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	①オープンゼミ開催日時：11 月 6 日（金）4 限/11 月 13 日（金）4 限 ②説明会開催日時：11 月 6 日（金）5 限/11 月 13 日（金）5 限 ※オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

オープンゼミに参加される方は、**場の雰囲気**に注目するだけではなく、所属メンバーとの議論にも**自由に楽しく**参加し、また、**遠慮なく提案・質問**をしてください。ゼミの学びを体験しながら、ゼミ生と交流する時間をぜひ楽しんでください。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002006

テーマ	実践する技術哲学				
担当者	金光　秀和	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　4 限
関連するコース	人間文化コース　　ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標

このゼミでは、身近な技術を対象として問いを立て、他者と対話しながら深く考える**探究的姿勢**と**実践力**を育みます。フィールドワークや観察活動、プレゼンテーションなどの表現活動を通じて、**課題発見・分析・構想・発信の力**を高めます。また、外部ゲストとの対話やイベントの企画・運営、他大学の見学や共同活動を通して、異なる分野や立場に開かれた**コミュニケーション力、調整力、ファシリテーション力**を養います。

授業のテーマ

本ゼミのテーマは「**実践する技術哲学**」です。AI、都市インフラ、ロボット、生活に関わる道具など、私たちは日々、技術とともに生きています。こうした身の回りの技術に目を向け、たとえば、「なぜそうなっているのか？」という問いを立てながら、社会や制度、倫理との関係を探ります。観察や対話、デザイン的思考、さらには表現活動も取り入れながら、**哲学的思考を実社会にひらく探究**を進めます。

授業の進め方

技術哲学に関する文献講読、身近な技術の観察、問いのトレーニング、フィールド調査、SF を題材としたリーディングセッション、ミニ・プレゼンなど、多様な活動を通して、**観察・問い・考察・対話・発信のプロセスを行き来しながら活動**します。また、外部ゲストの講演、他大学の研究室見学、社会人とのディスカッションなど、立場を越えた学びの場も重視します。さらに、希望する学生は、イベントの企画・運営や国際的な協働学習にも挑戦できます。実践的なプロジェクトに関わることで、企画する力、関係者と調整する力、そして自ら行動を起こして形にしていく力を養う機会となります。

学生の皆さんへのメッセージ

- 身近なものについて、「なぜ？」と感じることがある。
- 誰かと問いを共有しながら、深く考えてみたい。
- 現代社会の具体的な課題に、技術やデザインの視点から取り組んでみたい。
- 対話の場やイベントを、自分で企画・運営してみたい。
- 理系ではないけれど、AI やロボットなど、身近な技術と社会の関係について考えてみたい。

⇒ 一つでも当てはまるなら、このゼミはきっと**面白い居場所**になるはずです！

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

文献調査、文献購読、フィールドワークや観察活動、プレゼンテーションの準備、（希望する場合は）イベントの企画・準備などを行います。

成績評価基準

平常点（授業への参加、文献調査・購読、フィールドワーク・観察調査、プレゼンテーションなど）を 80%、年度末レポートを 20%として評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2 年生、新 3 年生　※新 3 年生は私の授業を履修したことのある方のみを募集の対象とします。

- 本ゼミでは、志望理由書の提出と面接により選考を行い、最大 8 名程度を募集します。
- 2028 年度、金光は 1 年間、研究休暇（サバティカル）で不在の予定です。期間中のゼミは代講の教員が担当しますが、研究や進路などについて、必要に応じて金光に個別に相談することも可能です。
- 4 年次には、「研究会修了論文」の執筆を強く推奨しています。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	ポータルサイト「講義内情報」に募集の概要を掲載していますが、最新情報は Instagram（@kanemitsuzemi）で更新します。備考欄のリンクをご参照ください。
説明会開催有無	有	

備考

https://www.instagram.com/kanemitsuzemi?igsh=ZGN6YmMwZDBnbXZs&utm_source=qr

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002007

テーマ	都市を構成するエレメントの勉強会				
担当者	北川 徹哉	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　環境サイエンスコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
1. 国内または海外の都市の特徴を説明できる。 2. 都市環境と都市基盤について説明できる。 3. 都市内・都市間の各種の交通や流通を説明できる。 4. 都市の政策事例を説明できる。	都市や地域を身体に例えると，それを構成するヒト・モノやエネルギー，システムは臓器であり，血液であり，神経であったりします。どれも欠かせません。このゼミは都市や地域の健康診断をしたり，治療方法を考えるようなものと理解していただければと思います。学生さんはグループに分かれて自分たちが取り組みたいテーマについて取り組んでいます。

授業の進め方

都市は多くのヒト，様々なモノやシステムで構成されています。たとえば，住宅やビルなどの居住施設，オフィス・工場，航空・鉄道・自動車・船舶などを媒体とする運輸や食品流通，各種の通信手段，電力・ガス・ガソリンなどは私たちの生活・命の礎です。また，多種多様な企業や銀行をはじめとする金融機関などは経済産業・ビジネスの基盤です。上下水道や廃棄物処理などの公共事業や地震・台風などに対する防災も必要ですし，人々を癒す公園やカフェ，人々を楽しませるエンターテイメント施設などもあります。さらに，それぞれの事業にはプロフェッショナルな人間が従事しています。このゼミでは，都市や地域を構成するこれらのヒトやモノ，システムについて勉強します。テーマごとにグループに分かれて輪講・調査・作業・ミーティングを行うとともに，プレゼン・討論とを織り交ぜてガヤガヤと研究を進めています。来年度もそういった方針だと思いますが，学生さんの意見や希望に応じてコロコロ変わります。ここ数年，各グループが取り組んできたテーマは，都市の拡大収縮，都市の緑化，LRT，企業の SDGs，都市での自転車利用，地方創生，都市の空き家問題、スポーツスビジネスの環境対策，農業の活性化，首都直下型地震，健康経営，気象ビジネスなど，多岐に渡ります。ゼミ合宿については学生さんの意向を聞いて実施するかどうかを決めています。

学生の皆さんへのメッセージ

・ほのぼのとやっているゼミです。
・ゼミでは初めて直面する内容もありますので，たとえ間違えてしまっても，迷ってしまっても，それは当然であり，それを楽しむくらいで丁度よいのです。
・むしろ間違えたこと，わからなかったこと，困っていることを隠さずに言えれば，それはあなたの魅力の一つとなります。
・学生さん同士でお互いに助け合い，補い合いながら，一歩一歩進みましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
テキスト・資料の熟読，調査，分析，発表の準備	参加，発表，質疑応答，討論などによる総合評価

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2～4 年生

基本的に，志望理由書での書類選考とします。面接は希望者とのみ，Zoom で行います。面接を希望する場合は，北川までメール（アドレスは下記の備考を参照）にて，学生証番号・氏名，面接希望の旨，面接の希望日時（第 3 候補くらいまで書いてください）をご連絡ください。折り返し，面接日時と Zoom 情報を返信します。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

質問などありましたら，北川までメール（kitagawa@hosei.ac.jp）をください。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002008

テーマ	持続可能な地域社会の創造				
担当者	小島　聡	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 3 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
共通テーマに関する知見、読書力、文章力、プレゼンテーションや討論などのコミュニケーション能力、時事問題を素材とする現代社会への見識、チームとしての協働力、プロジェクトなどの構想力、地域実践の企画運営能力、学外協力者との調整・関係構築力＝大学生としての総合的な能力・「実践知」を涵養します。	持続可能な地域社会への貢献を研究会のミッションとして掲げ、創造的な課題解決を図る地域のソーシャル・イノベーションと、ローカル SDGs を視野に入れて、環境・経済・社会の諸領域における多様な地域のテーマを統合的に検討しながら、地域実践に取り組みます。

授業の進め方

共通テーマでは、様々な地域の「持続可能性」について探究するため、文献購読により基礎知識とローカル SDGs の動向を理解した上で、【長野県飯山市】、【神奈川県横須賀市長井地区】、【千葉県香取市佐原地区】、【多摩川流域（源流域の小菅村や奥多摩町から下流域の川崎市まで）】をフィールドとして、景観、環境教育、食・農、子ども、居場所・コミュニティ、中心市街地の再生、サステイナブル・ツーリズム、都市―農山漁村の連携、地域ブランディングなどのテーマに取り組む 4 つのプロジェクトチームをつくり、市民、NPO、企業・まちづくり会社、商工会議所、自治体と連携しながら、ゼミ生が関係人口として調査研究・提言・地域実践を行います。私たちの研究会は、地域シンクタンクやチェンジメーカーとしての役割を果たすラボ（Laboratory）として、社会貢献のあり方を模索します。なお個人研究では、任意のテーマについて研究論文を作成します。

学生の皆さんへのメッセージ

チーム・ビルディングを図りながら、アクティブ・ラーニングの方法（グループワーク、地域実践、報告書作成、個人テーマの研究等）を組み合わせます。特に、高度な問題発見・解決型学習＝ＰＢＬ（Problem/Project based Learning）を重視し、地域と連携した実践と地域の課題解決を目的とした調査研究・提言の循環（アクション・リサーチ）をめざします。学内で考え、さらにフィールド実践を通して地域の人々と共に考える「生きた学問」（書をもってまちに出る）によって、社会に貢献する力を身につけましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
・文献購読、時事問題の情報収集、書評の作成 ・共通テーマに関する事前のグループワーク ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究	参加姿勢、共通テーマに基づく各プロジェクトと個人テーマへの取り組み姿勢による総合評価とします。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	2027 度の新 2 年生、15～16 名程度を募集します。

志望書と面接で選考を行う予定です。詳細は学習支援ステム（WebClass）に仮登録して確認してください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は、学習支援システム（WebClass）に仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

詳細は、説明会やオープンゼミ、学習支援システム（WebClass）、SNS、YouTube などで確認してください。積極的に地域実践に参加できる学生を歓迎します（都市部以外に、フィールドには過疎地域もあり、農山漁村の関係人口になりたい学生（田舎好き）にも機会を提供できます）。公務員（自治体職員等）をめざしている学生は個別にサポートします。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002009

テーマ	サステイナビリティと現代社会				
担当者	小島　聡	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日5限
関連するコース	全ての領域（RSP 用）　※人間環境学部 HP の RSP の説明を参照。				

授業の到達目標	授業のテーマ
・持続可能性に対する幅広い視野と教養、現代社会の動向に関する見識を身につける。 ・持続可能性に関する課題解決のための構想力やプロジェクト企画のデザイン力を身につける。	SDGs を視野に入れながら、現代の日本社会を俯瞰し、持続可能性に関する課題解決に向けた創造的実践（ソーシャル・デザイン・ソーシャル・イノベーション）について考えます。

授業の進め方

①持続可能性と関連概念としてのウェルビーイング、インクルージョンなどに対する基礎知識を身につけながら、SDGs の動向についても確認します。②受講者の関心と問題意識を確認しながら、人口減少、移住・関係人口、高齢化・少子化、障がい者の社会的包摂、空き家・空き地問題、商店街の衰退、過疎化と東京一極集中、都市・地域再生、市民参加のまちづくり、コミュニティ、孤立・孤独、貧困と格差、ジェンダー平等、多文化共生、地域文化・ソーシャルアート（社会的課題解決への芸術の活用）、地球温暖化、自然環境、災害、食料、農林水産業、資源循環と消費、再生可能エネルギー、交通といった諸課題に目を向けます。私の専門が地域のため、地域の持続可能性に直接または間接的に関連したテーマが中心になりますが、平和や地域の地域の国際化などグローカル（グローバル×ローカル）なテーマを含め、できるかぎり幅広いテーマを取り上げて行きたいと思います。③持続可能な社会を実現するための創造的実践（ソーシャル・デザイン・ソーシャル・イノベーション）と、④市民、企業、NPO、自治体などのステークホルダーの役割やパートナーシップについて検討します。⑤最終的に参加者には、〈My SDGs〉として、任意のテーマについて課題解決のためのプロジェクト企画を考えて発表します。
以上の内容について、文献、映像、討論・ワークショップ、ゲスト、ミニ・フィールドスタディなど、様々な手法を試みる予定です。なお、私が担当する一般学生の研究会との連携の機会も模索します。

学生の皆さんへのメッセージ

たとえ小さな挑戦であったとしても、未来への希望になりうるような実践にも目を向けながら、持続可能な社会について議論しましょう。また各人がＲＳＰにおけるそれぞれの目標の達成に研究会を活かしつつ、同時に、これからのライフ・デザインにも役立ててほしいと考えています。さらに、ＲＳＰ生間の共助（ピアサポート）とともに、様々な人生を歩んできた社会人学生のみなさんが集った偶然を大切にして、ＲＳＰ生のコミュニティ形成を図っていきたいと思います。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
・文献等の予習 ・テーマに関する調査と資料作成	積極性・協調性をはじめとする研究会への参加姿勢と、課題への取り組みなどによる総合評価とします。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	2027 年度にＲＳＰに所属する社会人学生（2～4 年）、10～12 名程度。 ※2026 年度の研究会からの継続履修を希望する学生を優先します。

志望書と面接で選考する予定です。詳細は学習支援ステム（WebClass）に仮登録して確認してください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	学部主催の説明会には参加しませんが、オープンゼミの終了後に説明・相談会を開催します。
説明会開催有無	有	

備考

2026 年度までは単年度ごとに履修する研究会でしたが、2027 年度からは基本的に複数年度の継続履修を前提とする研究会になります（ただし、2027 年度の新 4 年生も応募は可能です）。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002010

テーマ	身体の社会学				
担当者	佐伯英子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日　4 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 人間文化コース				

授業の到達目標	授業のテーマ
1. 障害を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得る。2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には研究会修了論文を提出する。	2027 年度の本研究会では、身体と社会の関係を、障害という視点から考えます。身体、感覚、認知の違いや、メンタルヘルスをめぐる困難が、社会の中でどのように不利益や排除につながるのかを、医療、福祉、教育、労働などの具体的な場面から読み解きます。あわせて、こうした不利益や排除に対する制度や支援、当事者の活動などの取り組みについても学びます。

授業の進め方

春学期と秋学期でそれぞれにテーマを設定し、それに沿って文献講読、その他のアクティビティを行います。これに加え、個人研究のためのワークショップと発表の機会も設けます。

学生の皆さんへのメッセージ

本研究会では、障害をめぐる社会のあり方を、文献や具体的な事例の検討を通して考察します。積極的に考え、意見交換に参加してください。また、文献の講読や課題等を通して授業で英語を使うこともあります。間違いを恐れずに挑戦してください。高いレベルの英語力は必須ではありませんが、授業の内容の理解と共に語学力を高める意欲を期待しています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。	授業中の発言、発表内容、課題への取り組み等から総合的に判断します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2・3 年生

・本研究会は、4 年次での研究会修了論文提出を必須とします。
・本研究会に参加する人は、現代社会論 I,II を履修してください。
・選抜は「志望理由書」の内容と面接（zoom）をもとに行います。「志望理由書」には志望の理由と関心のある社会課題や取り組んでみたい研究テーマ等を具体的に書いてください。面接のスケジュールや合否については、学習支援システムからお知らせします。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

質問等がある人は佐伯までメールでご連絡ください（saeki@hosei.ac.jp）。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002011

テーマ	人権尊重の経営と労働 CSR				
担当者	櫻井　洋介	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日4限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース　　グローバル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標

- 「ビジネスと人権」や「労働 CSR」に関する知見を深め、責任ある企業行動の観点から「企業」と「人」との関係性を考察する力を身に付ける。
- グループワークや個人発表、論文の執筆を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、論理的思考力等を鍛えるとともに、アカデミックスキルの修得や向上を通じて、「社会人基礎力」を獲得する。

授業のテーマ

- 本ゼミでは、近年、サステナビリティ経営の文脈で注目を集めている「ビジネスと人権」をテーマに扱います。
- サプライチェーン上の児童労働や強制労働等の社会的な問題や、ダイバーシティ経営（女性活躍・障害者雇用・外国人労働者の登用等を含む）、ディーセント・ワークの実現といった企業経営上の課題等、「人」に関連する様々な切り口から責任ある企業経営の在り方を学びます。

授業の進め方

- 学生の興味関心領域に基づいて自主研究を行い、プレゼンテーションを実施いただくとともに、その内容をもとにディスカッションを行います（ゼミ生には積極的な発言を求めます）。4年次には、研究会修了論文を執筆してもらいます。
- 研究はチーム単位で2・3年生を中心に進め、研究の節目には学外への成果報告を行います（研究成果のアウトプット活動を重視）。4年生は、2・3年生の研究をサポートしながら、研究会修了論文のための個人研究を進めてもらいます。
- 夏季休暇には、ゼミ合宿を実施します（4年生には、卒業論文の中間報告をしてもらいます）。また、ゼミ生の関心領域等に応じて、ゲストスピーカーの招聘や校外学習（企業見学や他組織との交流、イベントへの参加等）を企画します。

学生の皆さんへのメッセージ

本ゼミでは、理論と実践の往還を目指しており、実務に携わる企業や組織との接点を大切にしています。大学を飛び出して学びの機会を得ることは、学生にとって貴重な経験になる一方で、責任をもって関与し、主体的に学ぶ姿勢が問われることになります。「学び」にも「遊び」にも全力で取り組みながら、自律的に考え行動することのできる学生を歓迎します。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

自主研究（文献調査、資料作成、発表準備等）、企業訪問や校外学習等の実施、夏季休暇期間のゼミ合宿、合同研究発表大会、卒論発表会への参加　等

成績評価基準

ディスカッションへの参加、グループワークやゼミ活動への貢献、グループ・個人発表の内容等を総合的に評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年：**新2年生、新3年生（新2年生は 10 名程度、新3年生は若干名）**

- 応募学生は、**担当教員の「研究会 B（人間環境演習）」を通年で履修して下さい**（「サステナビリティ経営」および「ビジネスと人権」の基礎知識習得のため。本研究会では、基礎知識を前提にディスカッションやアウトプットを行います）。
- 志望調査票と面接（対面 or Zoom）による選考を行います。詳細は学習支援システムを確認して下さい。
- **4年次には卒業論文の執筆を求めます**。その前提で応募をご検討下さい。
- 面接試験の日程連絡及び結果報告等は、学習支援システムとゼミのインスタグラムにて行いますので、ご確認下さい。
  ※インスタグラム：法政大学_櫻井研究会 A（URL：https://www.instagram.com/hosei.sakuraizemi/）

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	**11 月 5 日（木）3 限に、BT26 階のスカイホールにて、アサヒホールディングス株式会社様と学生の対話セッションを行います。**途中参加・途中退出も可能ですので、関心のある方は是非お越し下さい（研究会の授業は 4 限ですのでご注意下さい）。**木曜 4 限のオープンゼミは、10 月 29 日（木）4 限と 11 月 5 日（木）4 限に BT0907 にて行います**。こちらも関心のある方は是非お越し下さい。
説明会開催有無	有	

備考

担当教員は実務家教員（現役のサステナビリティコンサルタント）であり、「ビジネスと人権」や「労働 CSR」、「サプライチェーン管理」等を専門にコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、授業を行います。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002012

テーマ	気候変動と防災				
担当者	佐々木　大輔	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日　3 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　　環境サイエンスコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
・気候変動と防災に関する基礎知識を身に付けます。 ・問いを立てて調査し、発表・議論する力を養います。 ・4 年次に**研究会修了論文**を執筆します。	緩和と適応の両面からの気候変動対策、被害を最小限に抑える事前防災、災害からの復興を横断的に学びます。 （ゼミ生の研究テーマ例：都市型災害、避難所、田んぼダムなど）

授業の進め方

原則として対面の演習形式で行います。春学期は文献講読と議論を通じて各自の研究上の問いを定め、秋学期は調査・分析の進捗を発表して研究を深めます。夏季休暇中には**ゼミ合宿（フィールドワーク）**を行う予定です。

学生の皆さんへのメッセージ

豪雨や猛暑など、気候変動と関わりの深い災害は身近な問題です。佐々木ゼミでは、人々の命と暮らしを守るための対策や、災害に強い地域づくりを考えます。少人数で意見交換がしやすく、発表の機会も豊富です。社会人学生（RSP 生）も在籍し、世代を超えて学び合えます。開講間もないゼミなので、皆さんと一緒につくっていきましょう。

2026 年度の夏合宿（1 泊 2 日）では、1 日目に伊豆市土肥の津波避難複合施設「テラッセ オレンジ トイ」を訪れ、平常時は観光・交流の場として、災害時は避難施設として機能するための工夫を学び、夜は宿でのバーベキューで親睦を深めました。2 日目は熱海市伊豆山の土石流災害（2021 年 7 月）の現場周辺を歩き、盛土が被害に及ぼした影響や、同様の災害を防ぐための制度・規制について考えました。

防災や気候変動に関する専門知識は問いません。関心のある皆さんの応募をお待ちしています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
文献講読、発表資料の準備、調査・論文執筆を行います。	平常点や研究の進捗状況などにより、総合的に評価します（100%）。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2～4 年生（新 2 年生を中心に 10 名程度）

■**選考方法**：応募者（複数）と現役ゼミ生（複数）による**集団面接（対面・30 分程度）**で選考します。
■**面接日時**：**11 月 27 日（金）又は 12 月 4 日（金）の 12:20～14:50（昼休み・3 限）**のうち、いずれかの時間帯に行います。各自の面接日時は学習支援システムでお知らせします。
■**面接の内容**：自己紹介・志望動機、質疑応答、短いグループディスカッションを通じて、関心や意欲、議論への参加姿勢、ゼミ活動と学業・課外活動との両立の見通しなどを確認します。
■**合否**：面接の結果を踏まえて担当教員が最終的に決定し、学習支援システムでお知らせします。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	**【開催日時】10 月 23 日（金）及び 11 月 6 日（金）、いずれも 3 限（13:10～14:50）** ※通常のゼミの授業内で、オープンゼミと説明会を同時に開催します。オープンゼミ・説明会の詳細情報については、学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

・**10 月 22 日（木）13:00～17:00 の研究会個別相談会**には、現役ゼミ生が参加します。お気軽にお声掛けください。
・ゼミ紹介：https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/seminar/sa/sasaki/　問い合わせ先：dsasaki@hosei.ac.jp

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002013

テーマ	自然環境と災害－地域と社会の持続可能性－				
担当者	杉戸 信彦	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　環境サイエンスコース				

授業の到達目標

- 地域と社会の持続可能性について自然環境と災害にかかわる視点から説明できる。
- 自然環境と人間社会のかかわりあいについて説明できる。
- 調査法や発表法を身につける。
- 地図を活用できる。

授業のテーマ

持続可能性のある地域と社会の実現に向けて、その地域の自然環境がもつ個性との調和をはかる視点はひとつの鍵となります。また、自然災害が相次ぐなか、防災力の高い持続可能な地域・社会の構築に向けた取り組みが求められています。

本研究会では、自然環境について、あるいは自然環境と人間社会のかかわりあいについて、災害という側面を重視しながら主に地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。

授業の進め方

グループワークや文献講読、個人研究、ディスカッション、時の話題の紹介などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、地形、土地条件、土地利用、ハザードマップ、歴史、教育、地域社会、行政、産業などです。自然環境と人間社会にかかわる内容をひろく扱います。

とくに個人研究は、皆さんの主体的な問題意識や興味関心がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、積極的に学び、意義深いテーマや重要な地域を見出すよう期待しています。

学生の皆さんへのメッセージ

自然環境から地域、社会、人々にかかわる研究テーマをひろく扱っています。恩恵という側面も含めて自然環境の地域性と歴史的変遷を踏まえる視点を大切にしながら取り組んでください。社会的な側面を含め、地理学的な視点から物事を読み解く力はさまざまな場面で必ず役立ちます。また、研究会での取り組み、またその積み重ねは、将来のご自身を支えるものになります。積極的に取り組んでいきましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

資料収集や調査、発表準備、まとめ等を行う。
日帰り巡検を年 2 回予定しています。

成績評価基準

平常点やレポート等の総合評価（100%）
4 年次には卒業論文（研究会修了論文）を提出することとします。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2 年生 8 名程度・新 3 年生若干名

志望調査票に、志望理由と取り組みたいテーマを記してください。後者は箇条書きでも構いません。

選抜は、志望調査票の記述内容や面接などによって行います。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。なお、応募締め切り後の連絡には、学習支援システムに加えてメール（stu アドレス宛）も使用します。確認するようにしてください。

「自然環境論 I」「同 II」「同 III」「自然災害論」を未履修の学生は、来年度の履修を検討してください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ（10/27・11/10（火）5 限、BT0504 教室）の際に簡単なゼミ説明を行います。研究会個別相談会ではゼミ生から説明があります。是非ご参加ください。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

不明な点などあればメールにてご相談ください。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002014

テーマ	持続的な社会を目指して：環境経済学的アプローチを用いて				
担当者	杉野　誠	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日　5限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース グローバル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
本研究会では、(1)都市における環境問題を広い視野でとらえ、(2)各自の価値基準に基づく政策思考力を高め、(3)他者に意見を伝え・議論できるようになることを目的とします。	日本における環境問題全般について取り扱い、持続可能な社会構築に関する内容を取り扱う。

授業の進め方

文献の精読を行い、レポーターによる報告および議論・討論を行う。全体で質問や議論を活発に行い、報告内容のみならず、周辺領域・関連する問題に応用する。また各自のまとめレポートの進捗状況を定期的に報告する。

学生の皆さんへのメッセージ

当研究会では、以下の学生活動を行っています。①個人が設定した研究テーマに基づいた学習・研究、②物々交換アプリの開発・運営・イベント開催および③付属中学での授業。上記の3つのうち1つか必ず行っていただきます。研究会応募の際は、どの活動を行いたいか明確に書いてください。
ゼミ合宿およびインゼミ(他大学との研究会)を実施する予定です。ゼミ合宿は 2 泊 3 日を休み期間中に行います(場所・時期未定)。インゼミは、学期期間中(11 月から 1 月の間)に早稲田大学・上智大学と行う可能性があります。両方に参加できる方のみ受講を認めます。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
テキスト・資料の熟読、関連情報の収集および報告資料の作成 まとめレポートのトピックを決定し、各自でレポート進める。	本演習の成績は以下の4点に基づいて決定します。 ① 報告資料の内容 ② プレゼンテーション能力 ③ 議論への参加(発言内容) ④ レポート

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年、3年、(2年10名以内、3年若干名)

選考方法：面談の内容は、(1)研究会のテーマに対する熱意(動機)、(2)積極性(コミュニケーション)および(3)希望活動内容となります。これらを総合的に判断する。
その他：履修期間は、1年間を前提として研究会を運営します。
複数年の履修を前提とした研究会となります。
また、ゼミ合宿およびインゼミにも必ず参加できること

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002015

テーマ	多様性と包摂の社会における異文化コミュニケーション:教育と研究 （Intercultural Communication in a Diverse and Inclusive Society: Education and Research）				
担当者	ストックウェル・エスター	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日　4 限
関連するコース	グローバル･サステイナビリティコース　　人間文化コース				

授業の到達目標	授業のテーマ
This course develops students' understanding of intercultural communication competence (ICC), connecting ICC theory, education, and research with equity, diversity, and inclusion (EDI). First, students will compare ICC models, analyse communication problems and barriers to inclusion, and develop basic research skills. Second, they will investigate intercultural issues and design ICC learning activities, justifying their choices through theory and evidence. Finally, they will integrate their learning in a research project. By the end of the course, students will be able to connect theory with evidence, critically reflect on their perspectives, and propose educational approaches that support ICC development and inclusive learning environments.	This course explores intercultural communication competence (ICC), ICC education, and equity, diversity, and inclusion (EDI) in Japanese higher education. The first stage introduces ICC models, communication challenges, barriers to inclusion, and basic research methods. Through case analysis, discussion, and reflection, students examine individual assumptions, communication practices, and institutional arrangements. The second stage focuses on designing theoretically informed ICC learning activities and examining their potential contributions and limitations. The final stage integrates these foundations through a research project on an intercultural or inclusion-related issue. Throughout, the course considers majority-group perspectives, overlooked barriers, and approaches to creating inclusive environments.

授業の進め方

Classes include short lectures with visual materials, followed by group and class discussions. Students are expected to read assigned articles before each session.

学生の皆さんへのメッセージ

私たちは、大学や職場、地域社会で、さまざまな文化的背景や価値観を持つ人々と関わっています．そうした関わりでは、自分にとっての「当たり前」が相手には伝わらなかったり、よかれと思った行動が誤解されたりすることもあります．異文化コミュニケーションを学ぶことは、こうした違いに気づき、相手の視点を理解し、よりよい関わり方を考えることにつながります．本授業では、まず異文化コミュニケーション能力（ICC）の理論やモデルを学び、事例や話し合いを通じて理解を深めます．また、EDI（公平性・多様性・包摂性）の視点から、大学生活などの身近な場面で、参加を妨げる障壁を探ります．次に、異文化理解や対話を促す学習活動を企画し、その意義や課題を検討します．最後に、学んだ理論や調査方法を生かし、自分の関心に基づく研究プロジェクトに取り組みます．大切なのは、文化の違いについて知識を得るだけでなく、身近な経験に問いを持ち、自分の見方を振り返ることです．「なぜ伝わらなかったのだろう」「どうすれば誰もが参加しやすくなるのだろう」といった疑問が、学びや研究の出発点になります．特別な海外経験や予備知識は必要ありません．異文化コミュニケーションや、誰もが尊重される環境づくりに関心のある皆さんの参加をお待ちしています．

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
Students are required to prepare for each class by reading handouts and assigned articles related to upcoming topics.	Active participation is expected. Assessment is based on participation, presentations, and written assignments.

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 3-4 年生（グローカルコミュニケーション科目またはストックウェルの Human Communication 科目を受講した学生のみが募集対象となります。）

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有・無	オープンゼミ･説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有・無	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002016

テーマ	自然環境と人間との共生（主に地域環境の視点から）				
担当者	高田　雅之	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日　3限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース・環境サイエンスコース				

授業の到達目標

以下の 4 点を身に付けることを目標とします。
①自然環境に関する**幅広い知識・見識と柔軟な考え方**
②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（**プレゼンテーション／レポート能力**）
③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（**コミュニケーション能力**）
④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（**俯瞰的／論理的思考**）

授業のテーマ

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、**地域の社会や経済との関わりの視点**を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな**発想力と大局観・俯瞰力**を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

授業の進め方

ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①**グループワーク**をとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます
②**個人学習**によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③**野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿**を通じて、企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げます
④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な**修了論文**作成につなげます

学生の皆さんへのメッセージ

研究会が皆さんにとって有意義となるか否かは、個々人の自発性と創造性にかかっています。そのため、ゼミ活動への**参加意欲と全体への貢献意識**の高い人、また**合宿・サブゼミ・週末に行う野外学習に積極的に参加し**する人を歓迎します。“ネイチャーポジティブ”は私達の生存に関わり、自然環境を取り巻く様相は多面的でどれも**難解な答えのないテーマ**です。ゼミではそんな問題に挑み続けます。これからの社会を生きる上で求められる**「探求力」「解決力」**を身に付けましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

設定課題に対して、事前調査、所見まとめ、資料作成、発表準備などを毎回必ず行ってもらいます。また合宿や週末等に行う野外学習などへの積極的参加を要件とします。

成績評価基準

提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 3～4 年生。新 2 年生はゼミ形式で行う「人間環境特論」（木曜 2 限）を受講して下さい。

担当教員が 2029 年 3 月末に退職予定のため、1 年間または 2 年間の履修期間として募集します。
新 2 年生でゼミ参加希望の方は、木曜 2 限の「人間環境特論」（春・秋学期開講）を受講して下さい。現ゼミ生にも参加してもらいますので、ゼミと同様の内容・水準で自然環境に関する学びと学年を超えた交流を行いたいと思います。
募集人数：**新 3～4 年生を若干名**
選考：選考は①書面と②面接（対面）により行います。志望調査表には、「志望理由」に加えて「このゼミを通して何を経験し実現したいのか」も記載してください。2 つのAゼミを併願する場合は、両方に志望調査票を提出して下さい。
その他：「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」を**必ず履修**して下さい。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミは 11 月 6 日と 13 日（BT706）を予定しています。ゼミ形式の特論の雰囲気がわかると思います。詳しいことは学習支援システム（Hoppii）にてお知らせしますので仮登録の上で確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

従来と異なる形での募集となりますので、不明な点は遠慮なくお問合せ下さい（mtakada@hosei.ac.jp）。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002017

テーマ	自然環境と人間との共生（主に国際的な視点から）				
担当者	高田　雅之	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日　4限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース・環境サイエンスコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
以下の 4 点を身に付けることを目標とします。 ①自然環境に関する**幅広い知識・見識と柔軟な考え方** ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（**プレゼンテーション／レポート能力**） ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（**コミュニケーション能力**） ④自ら課題を設定し、多角的な情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（**俯瞰的／論理的思考**）	自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、**国際的視点や海外事例**を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな**発想力と大局観・俯瞰力**を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

授業の進め方

ネイチャーポジティブ、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①**グループワーク**をとおして、設定課題について調査・考究し、解決に向けた成果を取りまとめます
②**個人学習**によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③**野外学習・サブゼミ・ゼミ合宿**を通じて、企業とのコラボやフィールドに学び、関心テーマを実践的に掘り下げます
④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な**修了論文**作成につなげます

学生の皆さんへのメッセージ

研究会が皆さんにとって有意義となるか否かは、個々人の自発性と創造性にかかっています。そのため、ゼミ活動への**参加意欲と全体への貢献意識**の高い人、また**合宿・サブゼミ・週末に行う野外学習に積極的に参加し**する人を歓迎します。“ネイチャーポジティブ”は私達の生存に関わり、自然環境を取り巻く様相は多面的でどれも**難解な答えのないテーマ**です。ゼミではそんな問題に挑み続けます。これからの社会を生きる上で求められる**「探求力」「解決力」**を身に付けましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
設定課題に対して、事前調査、所見まとめ、資料作成、発表準備などを毎回必ず行ってもらいます。また合宿や週末等に行う野外学習などへの積極的参加を要件とします。	提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワーク等への貢献、野外学習・合宿・サブゼミ等への参加、ゼミ運営への貢献などを総合的に評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 3～4 年生。新 2 年生はゼミ形式で行う「人間環境特論」（木曜 2 限）を受講して下さい。

担当教員が 2029 年 3 月末に退職予定のため、1 年間または 2 年間の履修期間として募集します。
新 2 年生でゼミ参加希望の方は、木曜 2 限の「人間環境特論」（春・秋学期開講）を受講して下さい。現ゼミ生にも参加してもらいますので、ゼミと同様の内容・水準で自然環境に関する学びと学年を超えた交流を行いたいと思います。
募集人数：**新 3～4 年生を若干名**
選考：選考は①書面と②面接（対面）により行います。志望調査表には、「志望理由」に加えて「このゼミを通して何を経験し実現したいのか」も記載してください。2 つのAゼミを併願する場合は、両方に志望調査票を提出して下さい。
その他：「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」を**必ず履修**して下さい。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミは 11 月 6 日と 13 日（BT706）を予定しています。ゼミ形式の特論の雰囲気がわかると思います。詳しいことは学習支援システム（Hoppii）にてお知らせしますので仮登録の上で確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

従来と異なる形での募集となりますので、不明な点は遠慮なくお問合せ下さい（mtakada@hosei.ac.jp）。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002018

テーマ	文化人類学の視点から文化を探る				
担当者	高橋五月	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日　4限
関連するコース	人間文化コース （場合によってはグローバル・サステイナビリティコース選択も可能ですが、人間文化コースの科目履修との両立を奨励します。教員に相談してください。）				

授業の到達目標	授業のテーマ
1）文化人類学についての基本的な理解を得る、 2）エスノグラフィーの知識と実践スキルを得る、 3）学術的議論を応用し、身近な社会問題や文化的営みについて具体例を交えながら自分の考えを述べることができる、4）文献研究、研究発表、論文作成のスキルを得る。	授業テーマは文化人類学的視点を用いて身近な社会問題や文化的営みを調査研究することです。調査手法はエスノグラフィー（人の話を聞き、行動を観察し、その社会・文化背景を考察する）を用います。研究テーマは自由です。（例：土産、ガチャ、推し、共食と会食、ミニシアター、等々）

授業の進め方

本研究会は大きく分けて3つの活動で構成されます。

① 文献リーディング：ゼミ生の調査対象地、調査テーマ、エスノグラフィーに関連した文献を全員で講読し、意見交換。
② 現地調査：各自が選択した研究テーマで調査計画書を作成し、実際に現地調査を実行し、発表し、意見交換。
③ 研究分析と論文作成：現地調査をもとにリサーチクエスチョンを練り、調査データを考察し、研究論文を仕上げ、発表する。（4年生は卒論を完成させ、発表する）

学生の皆さんへのメッセージ

高橋 A ゼミは卒論提出が必須です。A ゼミ生は 3 年生と 4 年生で構成されており、内容は主に卒論研究に向けた準備です。高橋ゼミの「核」は文化人類学的視点ですが、学生が取り組む卒論研究テーマは多種多様です。その為、ゼミでは自分の研究テーマだけでなく他のゼミ生が取り組むテーマに関連する文献講読や意見交換にも積極的に参加します。自分とは異なる研究テーマに取り組むゼミ生と意見交換することで自分の視野が広がる楽しさを味わうこともゼミの醍醐味です。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
関連文献の講読、文献感想文、ファシリテーター、調査準備、現地調査、発表準備、論文作成	平常点（意見交換への参加など）、フィールドワーク、各種発表、文献感想文や論文による総合評価

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	高橋 B ゼミ(春・秋両方)を受講済みの新 3、4 年生、もしくは 2027 年度に高橋 A・B ゼミを同時履修できる新 3 年生

＊志望票には、現時点で考えている卒論研究テーマとその理由についても書いてください（テーマは後で変更可能）。
＊2027 年度に高橋 A・B ゼミの同時履修を希望する新 3 年生は、必ず志望票に A・B ゼミ同時履修希望について言及してください。
＊2027 年度までに「環境人類学 I」「同 II」「同 III」の 2 科目以上を履修することを奨励します。
＊A ゼミ受講生は人間文化コース選択を奨励します。グローバルサステイナビリティコース選択を希望する方は事前に高橋まで個別にメールでご連絡ください。
＊新 2 年生でエスノグラフィーを学びたい方は、まずは**「人間環境演習」**（通称、高橋 B ゼミ）**を春・秋学期両方**受講し、エスノグラフィーの基礎を学んでください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	無	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002019

テーマ	「持続可能な社会を求めて：途上国の人々と先進国の私たち」				
担当者	武貞　稔彦	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	金曜日　5限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース　　ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
本研究会では、(ア)持続可能性(もしくは開発と環境)をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ)自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ)途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。	2027 年度は「環境」をテーマとします。環境を保全するべきという考え方と、貧困を削減するために開発を進めるべきという考え方はどこでどのようにバランスをとることができるのでしょうか。「持続可能な開発」の内実について考えていきます。

授業の進め方

主に　a)基礎文献の精読、b)与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c)参加者の意見表明の機会、などからなります。受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。(なお、授業とは別にサブゼミが金曜日 6 限に学生の自主活動として実施されることがあります。)

学生の皆さんへのメッセージ

以下のキーワードに強い関心のある人の応募を期待します。【途上国、貧困、援助／支援、環境、正義、社会】
演習参加者に最も求められるものは知識や学力ではなく「コミットメント」と「他者への配慮」です。教員としては、ゼミへの時間通りの出席および事前の予習は当然のことと考えています。
とりわけ将来、国際協力や途上国開発にかかわる仕事に就きたい人、途上国を中心とした異文化と関わりながら国際的な舞台で仕事をしたい人は積極的に応募を検討してください。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
必要な文献は必ず熟読し事前の課題を提出したうえで演習に臨むこと。関連して紹介された参考書なども出来る限り目を通すこと。必要に応じてゼミ外でもお互い積極的にコミュニケーションをとり、課題等につき議論する機会を設けること。	研究会での議論への貢献、必要なレポート、その他研究会運営における貢献などを総合的に勘案します

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	**新 2 年生 10 名程度。** **新 3、新 4 年生の応募も可。RSP 生も応募可。(参加実績有り。)**

＊　4 年次に研究会修了論文を執筆します。
＊　応募者多数の場合は、志望調査票の精査、面談等を通じた選考を行います。選考方法およびスケジュールについては、学習支援システムを通じて連絡します。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

特になし。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002020

テーマ	「他者の文化、社会の他者――ヨーロッパと近現代日本の思想・文化・社会」				
担当者	竹本　研史	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日　5 限
関連するコース	人間文化コース（◎）、グローバル・サステイナビリティコース（〇）				

授業の到達目標とテーマ

本研究会では、マイノリティを中心とした〈他者〉がどのように文化をつくり、逆に〈他者〉はどのように表象されてきているのか、またその他者が実際に、社会においてどのように排除されているのか、どのように社会的に包摂すべきなのか、それら以上の諸点について、ヨーロッパや近現代日本を舞台にして、人文・社会系の文献や芸術作品の分析を通じて考察することがテーマである。

各ゼミ生は、ゼミでの学習や講義、社会連携科目、自身の個人研究とフィールド調査を通じて、テクストの読解力の養成とともに、自身の専門的知見を広め見識を深めることによって、最終的には、**4 年生の最後にその学生にしか書けない立派な研究会修了論文を完成させること**を目標としている。

授業の進め方

（1）ヨーロッパや近現代日本における、他者の文化、社会の他者について、古典も含めた文献講読・芸術作品分析＋秋学期の個人研究発表。
（2）年 1、2 回、事前学習のうえ、近隣の文化施設での芸術鑑賞とゼミ合宿を通じた人文系のフィールド調査。
（3）サブゼミで、ゼミの卒業生も参加する読書会をやっている。

学生の皆さんへのメッセージ

ゼミは、たくさん恥をかき、数多くのミスを重ねていく場である。重要なのは、それを恐れず、教員やゼミの同僚たちの助言を受けながら、毎回の課題を誠実にかつ確実にこなすこと、そして、これを問わねば生きていけないという、各人にとって切実なテーマを深く追求していくこと、ただそれだけである。

古代から現代までのヨーロッパ、および近現代日本の文化や社会に関心がある方であれば大歓迎。これまでのゼミ生の研究テーマも多岐にわたる（ゼミ生の研究テーマについては学習支援システム掲載資料を参照）。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

（1）授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。
（2）**とにかく本を読むこと**。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、キャンプ、落語などを積極的に鑑賞、観戦、実践すること。
（3）人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋、図書館に足しげく通うこと。

成績評価基準

（1）**2、3 年生：**授業中の数回の発表と司会、積極的な議論への参加、ゼミの運営への貢献、夏 4,000 字・冬 6,000 字の期末レポートと 5 月まで毎月 1 度各 1,200 字の小レポート、6 月の研究計画書、以上の提出。
（2）**4 年生：**授業中の数回の司会、積極的な議論への参加、ゼミの運営への貢献、2 回の研究会修了論文の中間報告。5 月まで毎月 1 度各 1,200 字の小レポート、6 月の卒論構想届、**研究会修了論文**、以上の提出。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2 年生から 4 年生まで

志望調査票と面接により選抜。選考にあたり志望調査票の記載内容はゼミ生にも共有される。**B ゼミ（演習）や ILAC の「教養ゼミ」との掛け持ち、自分の専門分野に関連した他学部公開科目などの受講を積極的に奨励している。**また**4 年次進級時まで**に、**「現代思想と人間 I・II 」両科目の単位**を必ず修得しておくこと。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認しておくこと。
説明会開催有無	有	

備考

その他、質問があれば、竹本まで連絡されたし。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002021

テーマ	世界と日本の生活保障―社会福祉と市民社会				
担当者	辻　英史	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火　曜日　5　限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　人間文化コース				

授業の到達目標

2000 年頃から日本では、貧困や非正規労働、高齢者の生活不安、不登校やひきこもり、社会的孤立など、生活の不安定化にかかわるさまざまな問題が注目されるようになりました。こうした問題は日本だけに見られるものではなく、時期や規模に違いはあっても、世界のさまざまな地域にも共通して見られます。その一方で、問題への対応のあり方は国や地域によって異なります。

このゼミでは、こうした「社会的弱者」と呼ばれる人たちをめぐる問題について、社会福祉・市民社会の両面から調査・分析し、その背景や仕組みを自分の言葉で論じる力を身につけます。また、人びとを支えるための制度や活動が、必ずしもすべての人を救うわけではなく、ときには新たな排除や抑圧を生むことにも目を向けます。

授業のテーマ

なぜ、豊かな社会であっても貧困や孤立はなくならないのでしょうか。なぜ、同じ社会に暮らしながら、支えられる人と支えからこぼれ落ちる人が生まれるのでしょうか。

このゼミでは、「社会的弱者」とはどのような人たちなのかを考えるとともに、そのひとりひとりの生活を支え、同じ社会の一員として共生していくために、どのような制度や活動が生み出されてきたのかを明らかにします。日本を中心に扱いますが、世界の各地域にも視野を広げます。また、現在だけでなく、歴史上のさまざまな時代も考察の対象とします。

さらに、社会福祉に関する行政や法律・制度だけでなく、人間相互の助け合いのあり方（「連帯」）や、NPO・NGO といった市民社会の活動も幅広く扱います。2027 年度のテーマは、引き続き＜外国人市民との共生＞、＜子どもの貧困＞です。

授業の進め方

このゼミでは、以下の活動を行います。

① テキスト講読：テーマに関連する重要文献（主として日本語）を講読します。
② グループワーク：参加者各自の関心に応じてグループに分かれ、調べた内容を報告します。
③ 現地訪問：毎年のテーマに関連する施設や団体を訪問し、その活動を見学したり、実際に活動を手伝ったりすることで、グループワークに活かします。
④ サブゼミ：通常のゼミの時間に続いて、2 年生の読解力向上のためのテキスト精読や 4 年生の卒論準備のための勉強会を開催します。
⑤ ゼミ合宿：各学期 1 回程度開催します。
⑥ 面談：夏休みと春休みに全ゼミ生に個別面談を実施します。

学生の皆さんへのメッセージ

世の中は、元気で健康な人ばかりではありません。裕福で幸せな人ばかりでもありません。皆さんの身近にも、普段は気がつかなくても、生活上の困難や孤立を抱えている人がいるはずです。このゼミでは、そうした人びとの問題を遠くから眺めるのではなく、同じ社会に生きる一人ひとりの問題として考えます。

ゼミは、授業時間の中だけで完結するものではありません。テキスト講読では、事前に指定されたテキストを読んでくることが前提です。グループワークでは、授業以外の時間に自分で調べてきた内容についてグループで話し合い、考えを深めていきます。発表者や先生の話を受動的に聞くのではなく、自分の経験や日頃から考えていること、自発的に調べたことについて積極的に発言できる人を歓迎します。

なお、このゼミでは 4 年次の卒業論文（新 3 年生は研究会修了論文）の執筆を必須としています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

・テキスト講読　・グループワークと発表の準備
・現地訪問の準備　・サブゼミの準備

成績評価基準

・毎回のゼミでの議論への参加、発表・報告
・グループワーク報告（各学期）、レポート（秋学期末）

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2 年生：7 名程度、新 3 年生：若干名

参加希望者は、Hoppiiに仮登録し、学部YouTube動画や説明ファイル「2027年度辻ゼミ概要」（オープンゼミ・説明会でも配布）を参考にして、自分がなぜこのゼミに入りたいと考えたのかを、志望調査票の「志望理由」欄に具体的に書いてください。なぜ社会福祉に関心を持ったのか、その中でもどのような領域や「社会的弱者」に関心があるのかなどを書いてください。記入内容にもとづいて面接（オンライン・20分程度）を実施します。詳細はHoppiiからの一斉配信メールで連絡します。

オープンゼミ・説明会		
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ：10/20、10/27、11/10　火曜5限・F506 説明会：10/20、10/27、11/10　ゼミ終了後・F506
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002022

テーマ	外国企業の英文 CSR 報告書を読む				
担当者	永野秀雄	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　2限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース　　グローバル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
このゼミナールは、①4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①ラジオビジネス英語の暗誦、②Japan Times 1 面の訳を毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、水質関係第 1 種公害防止管理者試験、英検準 1 級、及び TOEIC 800 点以上の取得を目標としています。	この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2027 年度は、英文で書かれた外国企業の CSR 報告書又はサステイナビリティ報告書を学習します。

授業の進め方

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿（又は大学でのゼミ）は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、4 年生による研究論文の発表が行われます。

学生の皆さんへのメッセージ

この研究会で勉強する内容は、質・量とも、かなりのものがあります。自分1人で同じ内容を勉強して成果を出すことは、かなり難しいと思います。しかし、本研究会に所属すれば、運動部での練習のように、先輩・同期と一緒に努力することで達成が可能になります。本研究会において、これらの課題に正面から取り組み、自分を鍛えれば、卒業後、自分が納得しうる就職ができると思います。本研究会の卒業生からは、「人生を変えたゼミ」と評価して頂いています。本研究会の卒業生は、現在、世界 5 カ国に駐在して活躍しています。元気と意欲のある方の応募を期待しています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。ゼミでの発表準備、ラジオビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなし、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。	平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年生

新2年生（現1年生）を募集します。募集人数は、この2限のゼミで 8 名前後です。2限と4限のゼミの内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。応募は、Hoppii で[2027 年度応募用]研究会 A で、2限と4限の両方を受け付けます。
選考は、応募者に対して4年生数名が主体となって対面で面接します。自己紹介と志望理由について、合計3分でスピーチしてください。面接の日時・場所については、課題（志望書）を提出された方に対して、メールでお知らせいたします。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002023

テーマ	外国企業の英文 CSR 報告書を読む				
担当者	永野秀雄	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　4限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース　　グローバル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
このゼミナールは、①4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、②文献読解を中心とした英語力を身につけること、③日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、①ラジオビジネス英語の暗誦、②Japan Times 1 面の訳を毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、水質関係第 1 種公害防止管理者試験、英検準 1 級、及び TOEIC 800 点以上の取得を目標としています。	この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2027 年度は、英文で書かれた外国企業の CSR 報告書又はサステイナビリティ報告書を学習します。

授業の進め方

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿（又は大学でのゼミ）は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、4 年生による研究論文の発表が行われます。

学生の皆さんへのメッセージ

この研究会で勉強する内容は、質・量とも、かなりのものがあります。自分1人で同じ内容を勉強して成果を出すことは、かなり難しいと思います。しかし、本研究会に所属すれば、運動部での練習のように、先輩・同期と一緒に努力することで達成が可能になります。本研究会において、これらの課題に正面から取り組み、自分を鍛えれば、卒業後、自分が納得しうる就職ができると思います。本研究会の卒業生からは、「人生を変えたゼミ」と評価して頂いています。本研究会の卒業生は、現在、世界 5 カ国に駐在して活躍しています。元気と意欲のある方の応募を期待しています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。ゼミでの発表準備、ラジオビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなし、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。	平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年生

新2年生（現1年生）を募集します。募集人数は、この4限のゼミで 8 名前後です。4限と2限のゼミの内容は同じですので、いずれかを希望して下さい。応募は、Hoppii で[2027 年度応募用]研究会 A で、4限と2限の両方を受け付けます。
選考は、応募者に対して4年生数名が主体となって対面で面接します。自己紹介と志望理由について、合計3分でスピーチしてください。面接の日時・場所については、課題（志望書）を提出された方に対して、メールでお知らせいたします。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002024

テーマ	「人間と人間」「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考える				
担当者	芳賀　和樹	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日　4 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　人間文化コース				

授業の到達目標	授業のテーマ
1）資料（データ）の整理の仕方や読み解き方、専門用語の使い方を習得し、**長期的視野に基づいて論理的に思考**できるようになる 2）自ら「問い」を立て、適切な方法を用いて調査し、各自の「答え」を導き出せるようになる 3）多様な意見を尊重しながら建設的に議論できるようになる	この研究会では、**「人間と人間」の関係、「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考えます**。具体的なテーマは、ゼミのなかで相談しながら決定します。 **これまでにとりあげた具体的なテーマ**：里山、湧水、温泉、特産物と食、酒造、自然災害、自然観、観光開発、寺社、祭礼、お守り、古墳、城、戊辰戦争、着物、結婚式、文化など

授業の進め方

①入門書や歴史資料を読み解くことで、基本的な知識や研究手法を習得するとともに、各自の関心を深める。
②各自の関心にそくして「問い」を立て、文献調査やフィールドワークなどを行い、「答え」を共有・議論する。
③以上から、具体的な事例に基づいて、「人間と人間」の関係、「人間と自然」の関係の変容を長期的視野から考える。

―「問い」の例―
・農山村における家族や生業、暮らしのあり方は、どのように変容してきたのだろうか？
・地域の政治、社会、経済、文化は、どのような個性をもって展開してきたのだろうか？
・地域の名物や観光地（景勝地や寺社など）は、どのように形成されてきたのだろうか？
・食糧や飲料水といった生活必需品は、どのように確保されてきたのだろうか？
・洪水や土砂災害のリスクは、どのように軽減されてきたのだろうか？

学生の皆さんへのメッセージ

教員の主な研究分野は**「日本史」「環境史」**です。「歴史は暗記系の学問」というイメージがあるかもしれませんが、歴史学の醍醐味は、データを時系列順に整理し、人間がこれまでどのように生きてきたのか、どのように生きていくのかを考えるところにあると思います。未来を考えるとき、人は検討材料として過去を参照します。**長期的視野から過去・現在・未来を見通そうとするのが歴史学**だといえるでしょう。たとえば、歴史学の現代的意義として、次の 2 つをあげることができます。

①地域の個性の「再発見」→それぞれの魅力を活かした地域活性化に寄与
②在来知・伝統知（蓄積されてきた知識や技術）の「再発見」→資源の利用・管理、防災・減災のためのヒントの獲得

本研究会では、**時間として主に江戸時代～現在を（江戸時代を含まなければならないということではありません）**、**空間として日本**をとりあげますが、さらに古い時代や日欧比較などに関心がある場合には相談してください。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
発表の準備　（データの収集と整理、資料の作成など）	平常点、発表、質疑・討論などを総合的に評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2・3年生

希望者は、志望調査票に下記の【1】【2】を**できるだけ具体的に記入**して提出してください。調査票の内容に基づいて面接を実施します。面接の実施方法や日時などについては、学習支援システムを通じて配信します。
【1】この研究会を志望する理由（この研究会を**自身の学習・スキルアップのために**どのように活用したいか）
【2】関心のあるテーマやキーワードとその理由

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	下記日程でオープンゼミを開催します。そのなかで簡単な説明会を実施します。 10 月 26 日(月) 4 限　／　11 月 9 日(月) 4 限 詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

10/22（木）午後の研究会個別相談会に参加予定です。詳細は学部 Web サイトを確認してください。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002025

テーマ	SDGs 時代に社会から選ばれる企業とは何か				
担当者	長谷川　直哉	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4 限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース　　ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
研究会 A(3 年)と人間環境特論の 2 年生でチーム(4～5 名)を編成し、日経ストックリーグに参加します。春学期は、SDGs に関するグローバルトレンドと企業の関係について学びます。秋学期からは企業訪問などのフィールド調査を行って、サステナビリティ社会で必要とされる企業 20 社を選定しレポートを作成します。	SDGs やパリ協定(カーボンニュートラル)の登場によって、企業を取り巻く環境は激変しています。社会人になる前に「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する回答を見出すため、企業と社会の関係性を学びます。

授業の進め方

春学期は SDGs やカーボンニュートラルをテーマにした文献や論文を購読し、日経ストックリーグでの活動に必要な経営学や金融の知識、論理的思考法、ディベート力を養成します。秋学期はチーム毎にサステナビリティ報告書と財務データの分析や企業訪問・外部有識者と面談を行って、上場企業約 4,000 社の中から SDGs 時代にふさわしい企業 20 社を選定しポートフォリオを組成します。研究会 A(火・4 限)の応募者は研究会 B(人間環境演習)(火・5 限)にも参加することを勧めます。
また、ゼミでの学習やフィールド調査から得た成果をまとめて、学外の論文コンテストや日経ストックリーグに応募します。

学生の皆さんへのメッセージ

ゼミの研究成果を基に毎年応募している日経ストックリーグでは最優秀賞および金融大臣賞を受賞し、2011 年のゼミ創設以来 15 年連続入選(入選率4%程度)を果たしました。日経ストックリーグの成果をさらに発展させて外部のコンテストに応募し入賞しています。このゼミでは①知識を習得するだけではなく、②社会に通用する人間力[意欲×能力×コミュニケーション力×人柄×健康]を養成したい人を歓迎します。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
企業訪問調査やサブゼミ(火・6 限)をゼミ以外の時間帯に実施します。ゼミ活動の一環として、企業訪問や夏休みにゼミ合宿(奄美大島など)を行います。	成績評価は加点主義で、平常点(研究会活動への貢献度)、日経ストックリーグレポート、外部コンテスト、卒業論文等に対する取り組み姿勢を総合的に評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 3 年生のみ。（注）新 2 年生は人間環境特論(演習形式)を履修してください。

・担当教員が 2029 年 3 月末に退職予定のため、今回募集する研究会 A は 2 年間のみとなります。
・新 2 年生で日経ストックリーグに参加希望の者は、演習形式による人間環境特論(春・秋学期開講)を履修して下さい。
・新 3 年生で研究会 A を希望する者は人間環境演習(春・秋学期開講)も履修することを勧めます。
・新 3 年生は志望調査票に記載された志望動機と面接(オンライン)による選考を行います。
・応募者本人に直接面接の連絡をしますので、志望調査票には必ず連絡の取れるメールアドレスを記載してください。
・研究会 A に参加する未履修者は「現代企業論」「ビジネスヒストリー」「CSR 論Ⅰ」「CSR 論Ⅱ」を履修してください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002026

テーマ	名勝・詩跡・旅および都市について考える				
担当者	日原　傳	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日　4限
関連するコース	人間文化コース　ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
・名勝、詩跡および都市の成立の経緯について理解を深める。 ・近代以前の旅の実態について理解を深める。	・名勝、詩跡および都市の成立の経緯を探り、その自然や歴史との関わりについて考察する。 ・先人の残した紀行文を読み、過去の旅の実態を知る。

授業の進め方

・最初の時間に、本年度用いる基本テキストについて説明します。以後は、テキストを輪読していきます。
・春学期は江戸・東京という都市の成立に関する文献を読む予定です。
・秋学期は紀行文を読む予定です。

学生の皆さんへのメッセージ

都市機能の本質は「情報をふくむ人と物の流通の場」としての「いちば（市場）」であると語られる鈴木理生氏の著作を出発点に、「水の都」であった江戸・東京のことを考えたいと思います。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
・次回読む文献を下読みし、分からない言葉・事項は辞書等を用いて調べて授業に参加する。 ・最終レポートを提出する。	平常点（授業への参加態度、発表内容）　80% 最終レポート　20%

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2～4年生

・志望者が多く選抜が必要な場合は、「志望調査票」によって選抜します。
・必要に応じて「面接」をする場合もあります。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	無	説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002027

テーマ	地域と舞台芸術のサステイナビリティ				
担当者	平野井 ちえ子	開講期	通年	曜日時限	木曜日 4 限
関連するコース	人間文化コース ローカル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
舞台芸術の各ジャンルへの理解を深めます。首都圏／地域ならではの舞台芸術の創造、発信、継承について考察します。基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアを持ちましょう。	首都圏／地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、日本の文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。舞台作品に関する鑑賞眼を養います。

授業の進め方

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスなどの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期の後半は、受講者各自が自分の選んだ舞台作品について鑑賞レポートを作成し発表を行います。
秋学期は、文化政策や劇場建築の基本書を輪読した後、劇場／芸能の「場」に関する受講者各自のケーススタディを指導します。

学生の皆さんへのメッセージ

人文系の学問、とくに舞台芸術・身体表現・比較文化・コミュニケーション・アートフェスティバルなどに関心のある人の参加を期待します。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
文献講読の予習（発表者はレジュメまたはスライドの準備） 舞台鑑賞と劇場調査（レポート作成）	参加態度、授業への貢献度、口頭発表、レポートなどから総合的に評価します。口頭発表は、テキスト輪読分とレポート（舞台鑑賞＋劇場調査）分とします。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2～3 年生

選抜方法は、志望理由書とそれに基づく Zoom 面談です。志望理由書は具体的に書いて下さい。たとえば、下記の内容を盛り込むとわかりやすいです。①舞台芸術のどのようなジャンル／作品／アーティストに興味があるか（これまでの鑑賞経験も含む）②芸術の場として、どのような劇場／地域に興味があるか ③文化政策・アートマネジメント・フィールドワークに関する資料を読んだことがあれば、その著者名／資料名など。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	無	本研究会に興味のある方は、学習支援システムに仮登録して情報を確認して下さい。質問のある方は、教員メールアドレス(学習支援システムにアップした「募集要項」または「オフィスアワー一覧」に記載)までご連絡下さい。
説明会開催有無	無	

備考

個別相談会(10/22)にはゼミ生と教員が参加します。気軽にお声がけください。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会Ａ）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002028

テーマ	環境問題・地域課題の現場と社会調査				
担当者	藤田 研二郎	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 3 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　　サステイナブル経済・経営コース				

授業のテーマ

環境問題・地域課題の現場における人びとの取組みについて、**社会調査**を通じて捉える方法を学びます。環境社会学などの文献をレビューするとともに、具体的な事例の情報収集を行い、フィールドでの活動に参加しながら、インタビュー調査等の実習を行います。

授業の到達目標

社会調査の方法を通じて、環境問題・地域課題の現場における人びとの取組みを捉えられるようになること、具体的な事例の検討を通じて、それらの課題を分析・考察できるようになることを到達目標とします。

授業の進め方

（2 年生）　**フィールドワーク**を中心に、その事前・事後学習からなる**グループでの研究**を行います。**環境社会学や地域社会学、NPO 論**などの文献をレビューし、**情報収集やインタビュー調査等の方法**を学びます。

（3、4 年生）　グループ研究をサポートしながら、**個人での研究**（事例研究、歴史研究、統計研究など）を行います。4 年生は研究発表を通じて個人の研究テーマを深め、卒業論文の執筆を目指します。

※2026 年度のグループ研究のテーマは、水辺の保全活動（我孫子市）、規格外野菜の活用（あきる野市）、海洋プラスチックごみのアップサイクル（茅ヶ崎市など）です。

学生の皆さんへのメッセージ

日頃から、ディスカッションやスライドの共同編集など、**グループワーク**を行います。ゼミのメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、主体的にゼミの運営に参加してください。

2023 年度に開講した、まだ歴史の浅いゼミです。ぜひ一緒にゼミをつくっていきましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

- 環境問題・地域課題のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行う
- 文献を事前に読む、発表の準備をする

成績評価基準

平常点（30%）＋授業内での課題（フィールドワーク・文献レビュー・研究発表、40%）＋期末レポート（30%）、を想定。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2、3 年生　　合計 10 人程度

志望調査票に、次の①②を**できるだけ具体的に記入**し、提出してください。調査票の内容にもとづき、適宜書類選考、面接を行います。

① このゼミを志望する理由　　※**第一志望**の場合はその旨を記載してください
② 現在関心のある研究テーマ・具体的な事例

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ･説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

10/22（木）の研究会個別相談会に参加予定です。現役のゼミ生から話を聞けると思います。

また **11/5、12（木）12:30 から富士見坂校舎 F303 教室**にて、オープンゼミを行います（ゼミの説明や研究発表など、入退室自由）。詳細は学習支援システムで連絡します。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002029

テーマ	日本とヨーロッパの地域・企業分析				
担当者	松本敦則	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　３　限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース　　グローバル・サステイナビリティコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
地域・企業分析の理論や仕組みを理解する。それを踏まえたうえで、実践的な研究・活動ができるスキルを取得することを目標とします。	主に地域・企業分析という観点から日本とイタリア、スイス、ドイツ等との比較研究を行います。その他、関連する地域の中小企業、地域金融、地域産業政策、観光分野も扱っていく予定です。

授業の進め方

毎回担当者を決めて基本的な文献を輪読し、発表してもらいます。その他、フィールドワークやゲスト講師の講義も検討していきます。また、受講生は本研究会を通して各自の研究テーマを設定し、自ら研究を進めその発表会も行う予定です。

学生の皆さんへのメッセージ

本研究会では地域・企業が抱える課題の解決を主眼とし、歴史的経緯、現状分析などの理論的理解を進めます。さらに、実践知を高めるために、ある地域・企業の事例についてグループワークを行うことを考えています。今年度は福島県西郷村で夏のゼミ合宿を行いました。国際比較の対象国としてはイタリアをはじめとする欧州を中心に考えています。広く国際的な視点を踏まえ地域・企業分析に関心のある学生の参加を望みます。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
地域・企業分析に関する文献、新聞、雑誌、ニュースに関心を持ち、常に国際的、多面的な視点から最新の情報を得る努力をしてください。	毎回の出席、ゼミへの貢献、レポート提出を基準に総合的に判断します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2 年生

選抜方法の詳細は学習支援システムをご覧ください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	無	説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002030

テーマ	地球温暖化とその周辺				
担当者	松本倫明	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　5限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　環境サイエンスコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
地球温暖化とその周辺について理解を深めます。そのために、事実やデータにもとづいて客観的に定量的に解析し、考察する力をつけます。また環境に関する幅広い知見も得ます。	地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。最近の全体テーマは「カーボンニュートラル」、「AI×サステナビリティ」、「水素エネルギーの未来」、「シン SDGs」、「プラスチック資源循環とレジ袋有料化」でした。

授業の進め方

「グループワーク」（春学期）…特定のテーマについてグループで研究します。環境に関するイベントを視察するなどの学外調査や、文献に基づいた研究なども行います。
「環境速報」（通年）…環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。
「研究報告」（後期）…個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。
「報告書」（年度末）…１年間の成果をまとめた報告書を提出します。４年生は卒業論文を提出します。
「その他」必要に応じてサブゼミを火曜６限に行います。学期中には親睦会、夏休みには合宿も行います。

学生の皆さんへのメッセージ

ゼミの運営はゼミ生を尊重します。やりたいことなど、いろいろな意見を提案してください。
　研究テーマの選択についてもゼミ生の意向を尊重します。
ゼミ活動をインスタグラムで発信しています！　https://www.instagram.com/matsumoto.semi.hosei/

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
環境速報・グループ発表、研究報告などのレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。学外で調査を実施することがあります。	ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年生・新3年生

志望理由書と面接にもとづき選抜します。面接には現ゼミ生が同席する場合があります。
面接日程等の詳細は学習支援システムをご覧ください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002031

テーマ	21 世紀を健康に生きていくために				
担当者	宮川　路子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 3 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　　環境サイエンスコース				

授業の到達目標

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を磨き、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、ディスカッション能力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

授業のテーマ

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2025 年度には 2 万人を切ったものの、若年者の自殺は増加傾向であり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。

授業の進め方

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

学生の皆さんへのメッセージ

一緒に楽しく学べる方、意欲のある方を募集します。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、さらに関連図書をよむこと。そして、自分自身の意見を持てるようによく考えること。

成績評価基準

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行います。その際のレジュメ、発表内容、参加意欲および参加態度により評価を行います。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	主として新 2 年生、新 3 年生（若干名）

現役のゼミ生は継続履修するため、空き定員のみの募集となります。そのため、新 2 年生の募集が主となります。志望理由をしっかりと記してください。応募人数が多い場合には、面接を行います。面接日時の発表から面接までの時間が短いので志望者は掲示板を注意して確認するようにお願いします。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	無	

備考

なし

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002032

テーマ	21 世紀を健康に生きていくために				
担当者	宮川　路子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　　環境サイエンスコース				

授業の到達目標

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を磨き、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、ディスカッション能力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

授業のテーマ

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2025 年度には 2 万人を切ったものの、若年者の自殺は増加傾向であり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。

授業の進め方

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

学生の皆さんへのメッセージ

一緒に楽しく学べる方、意欲のある方を募集します。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、さらに関連図書をよむこと。そして、自分自身の意見を持てるようによく考えること。

成績評価基準

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行います。その際のレジュメ、発表内容、参加意欲および参加態度により評価を行います。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	主として新 2 年生、新 3 年生（若干名）

現役のゼミ生は継続履修するため、空き定員のみの募集となります。そのため、新 2 年生の募集が主となります。志望理由をしっかりと記してください。応募人数が多い場合には、面接を行います。面接日時の発表から面接までの時間が短いので志望者は掲示板を注意して確認するようにお願いします。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	無	

備考

なし

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002033

テーマ	持続可能な活力ある雇用社会～多様な人材の能力を活かすには				
担当者	山田　久	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日5限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース				

授業の到達目標	授業のテーマ
多様な人々が活き活き働ける経済社会や組織の在り方を議論することを通し、課題発見力・論理的思考力・対話力の涵養を目標にします。加えて学生の皆さんが社会に出て、個性を活かしながら組織で活躍していくのに有益な、考え方や視野を身に着けることを目指します。	人口減少が進み、企業や組織の人材不足は深刻になっています。一方で、世界情勢の複雑化や様々な社会課題・経営課題に対処するため、個々人の能力向上が求められる時代が到来しています。持続可能な活力ある雇用社会の在り方と、多様な人々が能力を伸ばして活き活き働ける社会や組織の在り方を考えます。

授業の進め方

以下を想定していますが、ゼミ生の皆さんの意向も聞きながら決めていきたいと思います。
【春学期】　ゼミ生の皆さんの関心に合わせつつ、労働経済学や人的資源管理論、労働経済白書などの教科書的な文献を輪読し、基礎的な知識を身につけます。
【秋学期】　経済社会や雇用に関わる課題についてのディスカッションを行います。また、ゼミ生それぞれがテーマを設定し、事例・文献の探索の仕方、データ分析の方法などを学びながら、レポート作成を行います。

学生の皆さんへのメッセージ

民間企業で長く働いた経験を活かし、ゼミ生の皆さんが充実した社会人生活を送るために有益なものの見方・考え方をお伝えできればと思っています。ゼミ生同士が切磋琢磨し、皆さんがバランスのとれた見方と多様な意見を尊重できる姿勢を身に着けられる場になればと考えています。本ゼミの他に、社会人大学院（イノベーション・マネジメント研究科）のゼミも担当しています。そちらでは、社会人学生の皆さんが、実社会の経験に根差した具体的な社会・経営課題に関するテーマを設定し、その解決策を提案しています。ゼミ生の皆さんと社会人の方との交流機会を設ければと考えています。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
自分で調べるテーマを決め、資料集めや関連図書を購読していただきます。新聞やニュースは毎日チェックし、世の中の動き（とくに経済や産業の動き）をフォローするようにしてください。	ゼミ参加への積極度、発表やレポートなどを総合的に判断して評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2年生

6名程度を目途に考えています。①書類選考と②面接で決定します。参加希望者は Hoppiiに仮登録したうえで、「研究会志望調査票」を記入し、アップロードしてください。書類選考を通過された方に追って面接の日時・場所を連絡します。詳しくはHoppiiをご覧ください。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	情報詳細はHoppiiに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002034

テーマ	「地域の経済」を考える				
担当者	湯澤　規子	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　3 限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　　サステイナブル経済・経営コース				

授業の到達目標	授業のテーマ
①自らの「問い」を立て ②主体的に調べ（フィールドワークや資料収集・分析） ③リサーチペーパーor ポスターの作成（2,3 年生） ④卒業論文の作成（4 年生）	この研究会では「地域の経済」を様々な視点から考えます。日常生活の中にある身近なことを出発点とし、課題を見つけ、それを広い視野から議論していきます。

授業の進め方

Step1：「地域の経済」に関する文献の精読とグループ報告
Step2：ミニフィールドワーク（現地に行くことが難しい場合は、様々な工夫やアイデアで実施する）
Step3：春学期前半に取り組んだ文献講読などをもとに、グループごとに「問い」を立て、調査計画を作成
Step4：グループごとの調査報告（2,3 年生）
Step5：個人テーマの決定と調査計画の作成(4 年生)

学生の皆さんへのメッセージ

◆どんな小さなことでも、自分自身の問題意識や好奇心にもとづいた「問い」を立ててみてください。
◆その「問い」を頭の片隅に置きながら日々を過ごすと、今まで見えなかったものが見えたり、気にならなかったものが気になったりしてきます。
◆その「発見」、「違和感」、「経験」を自分以外の誰かに伝え、一緒に考える場が研究会です。
◆おもしろさを育てる「共考」の場にしていきましょう。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
・興味関心に関わる情報を様々な視点から集める（文献、地図、写真、映画、小説、現地調査・・・） ・発表の準備（データの整理、レジュメの作成など） ・研究テーマにかかわる様々な体験をする	研究会への参加、発表、質疑応答、討論などを総合的に評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2 年生を中心に 10 名程度。新 3 年生、若干名。

参加希望者は、①なぜこのゼミを志望しているのか、②受講した中で興味深かった講義とその理由（研究したいテーマと関連させて）、③テーマにして、研究したいことをできるだけ具体的に、志望調査票に記入して提出してください。文字数は自由ですが、全体の分量が**学部指定の志望理由書 1 枚に収まるように**工夫して下さい。調査票の内容にもとづいて面接を実施します。面接の実施方法などについては、学習支援システムの「おしらせ」情報でお知らせします（同じ内容をメールでも配信します）。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミの時に簡単なゼミ説明を実施します。 10 月 27 日、11 月 10 日、火 3 限、教室は【Y402】です。 情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

◆オープンゼミは①13:10～14:10 研究進捗報告（通常ゼミ）、②14:10～14:40（説明会）
→①②どちらでも、いずれかでも参加できます。
*詳細は学習支援システムの
「お知らせ」を確認してください。

Instagram@hosei_yuzawakenkyukai
各 SNS の DM にて質問等も受け付けています←

HOSEI_YUZAWAKENKYUKAI

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002035

テーマ	散歩と読書と倫理学				
担当者	吉永明弘	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	木曜日2限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース 人間文化コース				

授業の到達目標	授業のテーマ
以下のいずれかを目標とする。 1. 散歩をし、街についての発表を行い、エッセイを書く。 2. 本を読み、内容について議論し、書評を書く。 3、倫理学に関する論文を書く。	散歩、読書、倫理学研究がテーマである。

授業の進め方

1. 散歩して街を観察し、気づいたことを話し合う（土日や長期休みに時間がとれるようにしておく）。
2. 読書会を行い、所定の本について議論する（事前に本を読んでくることが必須）。
3. 現代社会の倫理問題について話しあう（環境問題、医療問題、動物福祉問題が中心）。

これらのどこに力点を置くかは、参加者と話し合って決定する。ポスター発表や書評の本を制作することを予定している。

学生の皆さんへのメッセージ

以下のいずれかに該当する人の参加を望む。①授業外での散歩に積極的に参加したい人。散歩のなかで発見したことを他の人の前で発表したい人。②読書が好きで、読んだ本の話を周りにしたい人。難しめの本を読んでみたい人。③倫理学を専門的に学び、現代社会の倫理問題を同世代の人々と議論し、それについて考察し、論文を書きたい人。環境倫理、生命倫理、動物倫理の内容を研究したい人。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
散歩、読書、倫理の考察はすべて授業外でも行う必要があります。自分のペースで行える内容です。	散歩、読書、倫理の考察のどれかについて、何らかのアウトプットを出すこと（発表、エッセイ、書評、論文など）。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新 2〜4 年生

書類審査と面接により決定する。
正式な出願も、問い合わせも、面接の連絡等も、すべてメールで行うので、注意してほしい。
関心のある方は、このメールアドレスに連絡すること。吉永明弘 ayoshi1976@hosei.ac.jp
応募期間はこまめにメールのチェックをしてほしい。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミは 10 月 22 日、29 日、11 月 5 日、12 日の 2 限（BT1005 教室）。 教員からの説明を聞きたい方は、メールで問い合わせてください。
説明会開催有無	無	

備考

学生の要望を聞きながら進めるので、積極的に要望を出してほしい。

2027 年度研究会募集要項

研究会への所属を希望する学生は、必ず応募を行ってください。
同一研究会（研究会 A）への継続履修希望の学生は、応募は必要ありません。担当教員の指示に従ってください。

研究会	学習支援システム応募用授業コード	261002036

テーマ	情報処理に関する国家試験をめざす――基本情報技術者などへのアプローチ				
担当者	渡邊　誠	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日　2限
関連するコース	ローカル・サステイナビリティコース　　環境サイエンスコース				

授業の到達目標	授業のテーマ
情報処理技術者試験（国家試験）の受験をめざします。特に基本情報技術者試験（以下、基本情報）に関する事項を学習します。この受験のための基礎力を身につけることが目標です。基本情報などに関する学習は現代社会に内在する様々な社会課題を考察することにつながります。	テーマ：基本情報などを突破するためのゼミナール この試験を受験し合格することによって比較的高度な IT 知識とその活用力などの基礎事項を習得していることが認定されます。地域社会のみならず企業その他の様々な組織・団体でもこの知識・能力が求められています。

授業の進め方

授業ではテキストを指定しますので、これをゆっくりと読み進めながら学習します。また、皆さんそれぞれがノート PC を持ち込んでプログラミング体験することも含めます。過去問などにも多く触れることになります。人間環境学部で学んでいる皆さんは主に文系の立場であることを理解しています。わかりやすい授業となるようにゆっくりと進めていきます。これまで我々の学部学生の中から、IT パスポート試験に合格した人もいますし、基本情報に合格した人もいます。ぜひ参加してください。

学生の皆さんへのメッセージ

主に基本情報のカリキュラムの内容について学習します。これにより情報処理に関する別の試験である情報セキュリティマネジメント試験などにもつながっていく可能性があります。またこの内容を学習することにより、より上位の試験をめざす可能性も出てきます。基本情報は IT パスポート試験の上位に位置するものであるといえますが、この研究会の履修にあたっては IT パスポートについての学習経験は特に問題とはしていません。より深く理解を進めていこうとする気持ちが重要です。

授業外で行うべき学習活動（準備学習等）	成績評価基準
予習・復習を行います。教科書内の練習問題ならびに過去問などについて学習することが大切です。	授業参加の積極性と授業内容への到達度などを勘案して総合的に評価します。

募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）

募集対象学年	新2～3年生

連絡事項は学習支援システムに掲載しますので、注意して見てください。受講者数としては15～20名程度を想定しています。選抜に際して簡単な面接を行う予定です。連絡事項は学習支援システムに掲載しますので、注意して見ていてください。積極的に参加する意思のある方の受講を希望しています。

オープンゼミ・説明会

オープンゼミ開催有無	無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。
説明会開催有無	有	

備考

説明会はオンラインで開催します。詳しくは学習支援システムに掲載しますので注意して見ていてください。なお、このテーマは2027年度から開始されるものですので、このためオープンゼミは開催しません。2027年度受講生は本テーマ第1期生ということになります。